

第627回番組審議会報告

2018年4月10日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 今井美樹委員 太平信恵委員
津村記久子委員 東野博昭委員 細見良行委員 丸山雅也委員

■毎日放送出席者

梅本専務 木田常務
小林ラジオ局長 松本編成局長 竹田コンテンツビジネス局長
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆議題

1. 委員長・副委員長の選出

前年度の委員のうち中野委員が退任されたあと、今年度の委員総数は8人となった。委員長に佐藤卓己委員、副委員長に佐藤友美子委員が引き続き選出された。

2. 報告事項

- ①ラジオ・テレビの4月改編の概要について、ラジオ局長と編成局長がそれぞれ報告した。
- ②放送番組の種別の公表制度に基づき、平成29年度下期6か月分の番組種別ごとの放送時間を編成局長が報告した。あわせて同期間のCM総量及び4月以降の基本番組表についても報告した。
- ③インターネットを利用した「番組（動画）配信」についてコンテンツビジネス局長が報告。

◆議事の概要

2-① ラジオ・テレビの4月改編について

ラジオの今回の改編率は28.3%、自社制作率は97.6%。改編の目玉は、「Folk・Field・Fan・Find」の四つのF。谷村新司らフォークグループのアリスが出演する「MBSヤングタウン」を金曜22時に、知られざるネタをファインド（発掘）する「あどりぶラヂオ」を火水木の深夜に編成した。その他、フィールド、ファンの各テーマに沿って、プロ野球中継、深夜ゾーンの音楽番組などが魅力的なものになるよう力を注いでいく。

テレビは、昨年度の視聴率で「全日」（6時から24時）が関西で2位になるなど好調で、改編率は9.6%（総放送時間）と小さい。改編の基本方針は「継続と挑戦」。好調な番組は継続し、番組強化のための新企画の開発など新たな挑戦を続ける。改編の主なポイントは三つ。一つ目は22時台の枠大。月曜から木曜までの各番組が今まで22時54分で終わっていたのを、13分枠大して23時7分（23時をまたいで）まで枠大し、24時台の深夜枠を2分前倒しでスタート（「ニュース23」は10分枠小）。二つ目はライブ（生番組）の強化。来年4月にMBS旧館2階のスタジオが「ライブセンター」として生まれ変わるのを機に、地震や災害への対応に強く、有事に選ばれる局をめざす。三つ目は、「情熱大陸」の4月4週連続シリーズ“ハタチの情熱”。1998年4月の放送開始からまる20年、この4月末の放送で1000回を迎える番組が産声を上げた時に生まれた若者、二十歳になった人たちの情熱を4人連続で放送。

2-② 放送番組の種別の報告について

昨年10月から今年3月まで、報道番組は合計1万5242分（総放送時間の25.3%）、教育7983分（同13.3%）、教養1万4521分（同24.1%）、娯楽1万8759分（同31.1%）、通販3194分（同5.3%）、その他526分（0.9%）。また、この半期のCM放送実績は1万375分50秒で、総放送時間に対する割合は17.2%。

2-③「番組（動画）配信」について

毎日放送では、2015年3月から無料見逃し配信サービス「MBS動画イズム」、2016年12月から有料動画配信サービス「MBS動画イズム444」を開始、放送終了後の自社番組（の一部）などをインターネット経由で見られるように配信している。また、センバツ高校野球大会や全国高校ラグビー大会の全試合をライブ配信しているほか、ニュース動画の配信なども行っている。この4月には無料・有料・ライブ配信など各種サービスを統合、今後は配信する作品・番組をさらに拡大し、新たなビジネススキームとして強化、確立していきたい。

【各委員の意見から】

ーラジオ番組「アリスのMBSヤングタウン」について

■ アリスはぜひとも聴いてみたい。楽しみにしている。

—ラジオ番組「あどりぶラヂオ」について

- 今回のラジオの改編でいちばん気になる。どんな人が何を話すのか興味津々だ。
- ナイターの延長次第で番組の持ち時間が最長3時間から最短20分と変化するとは大変な番組だ。

—テレビ22時台の枠大について

- 「13分延ばし、2分前倒し」というやり方に目がいった。かつては、番組は定時スタートだったのが、軒並み、数分前スタートになった。あの時、時代が変わったなと思ったが、今回の番組枠変更も、また新しい区切りが来たような気がする。
- 「NEWS 23」の時間が10分減るとのことだが、どんなところを削ることになるのか気になる。今後、注目していきたい。

—番組全般について

- 学生など若い人の視聴（聴取）スタイルを見ていると、ラテ欄みたいなスケジュールに縛られない視聴の仕方ということがこれからは重要だと感じている。

以上